

学校教育努力点推進計画

1 主 題

「自分らしく学び 自分について考える 太子っ子」の育成

2 主題設定の理由

令和5年9月に「ナゴヤ学びのコンパス」が策定され、その中には「大人が子どもの学びに伴走し、子ども中心の学びを進めていくことが大切」と記されている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための、「子ども中心の学び」が重要視されるようになってきている。

昨年度は、「ともに学び 自分らしく生きる 太子っ子」という児童像を設定し、一人ひとりにより具体的な支援ができるようにしていった。また、一昨年度の反省を生かし、「個別最適な学習」を意識した授業実践を中心にを行い、子どもたちが学習内容や表現方法を選択する場面を取り入れた授業を行うことで、一人ひとりが主体的に学びを行うことができるようになった。

本年度は、「自分らしく学び 自分について考える 太子っ子」という児童像を設定し、「ナゴヤ学びのコンパス」にもあるように、「自律して学び続ける」姿を目指していく。「自律して学び続ける」姿とは以下のような姿であり、実践の中で以下のような姿が多く見られるような手だてを考えていきたい。

「自律して学び続ける」子どもの姿

- 興味・関心等に応じ、やりたいことを見つけて取り組む
- 学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ
- 学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける

3 基本的な考え

○ 自分らしく学ぶための手だて（本年度重点）

一時間の中で、子どもにゆだねる時間をできるだけ多く設けるように工夫し、自律して学ぶ姿がたくさん表出できるようにすることを目指す。

さらに、授業の導入部分でどのような声掛けや発問、動機付けをするべきかについて本年度は重点を置いて実践を進める。具体的には、児童の意欲を引き出す資料の提示、個別に調べたり考えたりしたいと思えるような発問や導入活動を各学年の発達段階や教科の特性に応じた手だてとして考えていく。

○ 自分について考えるための手だて

各教科領域において学習内容を自分自身の生活や将来に関わるように単元末で扱ったり、キャリアパスポートの活用を充実させたり、積極的にキャリア教育を進めていく。

4 昨年度までの研究イメージの違い

